



三つ編み
レティシア・コロンバニ著／
齋藤可津子訳／早川書房

インド、イタリア、カナダにも社会的にもかけ離れた境遇に生きる三人のヒロインは、不運や試練にあっても人生を切り拓こうと奮闘します。その彼女たちをつなぐのが「髪」。本国フランスで100万部を超える大ヒットとなり、32カ国以上で翻訳されています。「より光に満ちたフェアな世界を」という作者の願いが込められた感動作。

本を読もう

オンライン書店の普及などで本の購入方興味関心が持たずに出会いにくかった本も、た時に、本が自分自身に新たな視点を与え、どんな形であれ読書は幸せでせいたくなが全員女性と文学分野において女性たちががる作品や、本を読むことが困難な方への

日本のフェミニズム小説も注目されています



四十歳、未婚出産
垣谷美雨著／幻冬舎

旅行代理店で課長代理として働く優子。思わぬ妊娠に揺れ、差別や偏見に傷つきながらも、新しい命を守ろうとします。人の温かさに希望を感じる、痛快な小説です。



マジカルグランマ
柚木麻子著／朝日新聞出版

主人公の正子は75歳。夫が孤独死したことから「理想のおばあちゃん役」としての女優業も失職。借金も抱え困り果てた正子が若い娘や子育て中の主婦と出会い、始めた事業とは？そこで気づくことは？本年度（第161回）直木賞候補作。

あるのではないのでしょうか。
近藤 お正月、私（妻）の実家に先に行くことになった時、私の母から「こっちが先でいいの？」と聞かれました。夫の実家は全く気にしなかつたんですけど。
高橋ゆ 子どもの頃、父の実家の寒い台所で母が料理していたので、「嫁とはこうするもの」というイメージがありました。私は、夫の実家では妊娠していたこともあり、何もなくていいと言われましたが。
センター長 東アジアの文化は似ているところがあるので、この本を読むと自分

の話を語りたくなる人が多いんですね。
「三つ編み」
高橋ゆ 三つの異なる国のそれぞれの立場で壁にぶつかる女性たちが描かれています。遠く離れた国の物語ですが、共感できました。カナダの女性は弁護士でシングルマザー。仕事の成功を目前にして病気になった時、仲間たちから裏切られる場面には怒りを感じましたね。
高橋た カナダの女性が「自分は、鏡に映る自分の味方でなくてはならない」という場面に考えさせられました。また、インドの話で、素手で他人の排泄物を取る仕事があると知り、複雑な気持ちになりました。
栗山 フェミニズム小説は初めて読みましたが、男性を直接批判しているわけではないんだなと思いました。理解のある素敵な男性も登場していました。
センター長 相手が男性だろうと女性だろうと、社会全体であろうと、生きづらいつら点がある。フェミニズムというのは結局、自分がどう感じたか、どうしたいのかから出発することなのです。
近藤 生きづらい状況を小説で読むと自分を客観視できて、過去の体験を振り返るいい機会になります。
高橋ゆ エピソードが細かいから追体験できるのだと思います。インドの激しい性暴力の話も出てきますが、自分が体験したことのように感じられました。
センター長 暴力の表れ方など日本とは異なっている部分があっても、それに対して社会が完全に賛同して守ってくれるわけではないという点は同じ。彼女たちの悔しさ、虚しさ、でも黙っていられないという思いに共感できるのだと思います。（まとめ酒井）



© 2017 EX LIBRIS Films LLC - All Rights Reserved
世界で最も有名な図書館の舞台裏を描く、ドキュメンタリー。つねに弱者へ目を向ける「知の殿堂」の姿には、市民社会をより良くするヒントが溢れています。
<http://moviola.jp/nypl/> 令和元年10月1日現在、全国公開中

「ニューヨーク公共図書館 エクス・リブリス」
フレデリック・ワイズマン 監督



DVD 上映会や読書会、子ども会などの催しも行っていますので、ぜひお越しください！

各館の展示コーナーでは、毎月テーマにそったお薦めの本を紹介しています。もっと面白い本に出会えるかもしれませんよ。